

About us . . .

城 香菜子 Violin
 趣味：ブルーの愛車でドライブ
 星座：おうし座
 血液型：O型
 山響入団年月：2004年4月

中島 光之 Violin
 趣味：日本酒
 星座：おとめ座
 血液型：O型
 山響入団年月：1998年7月

井戸 健治 Viola
 趣味：野菜作り
 星座：かに座
 血液型：O型
 山響入団年月：1998年7月

渡邊 研多郎 ViolonCello
 趣味：愛犬と昼寝
 星座：おうし座
 血液型：コテコテのO型
 山響入団年月：2005年4月

村上 満志 Contrabass
 趣味：ゴルフ
 星座：かに座
 血液型：O型
 仙台フィルハーモニー管弦楽団
 コントラバス首席

郷津 隆幸 Clarinet
 趣味：オーディオ・ジャム作り
 星座：牡羊座
 血液型：A型
 山響入団年月：1975年4月

岡本 和也 Horn
 趣味：釣り・ドライブ・料理
 星座：うお座
 血液型：A型
 山響入団年月：1992年4月

高橋 あけみ Fagotto
 趣味：お菓子作り・他人の趣味に
 便乗（釣りや星空鑑賞）
 星座：やぎ座
 血液型：O型
 山響入団年月：2004年6月



アンサンブルだよ!全員集合!!
 Vol.2

パストラーレ

室内合奏団



2010年4月1日(木)
 18:45
 文翔館 議場ホール

主催：パストラーレ室内合奏団

共催：(財)山形県生涯学習文化財団(文翔館文化活動支援事業)

後援：(社)山形交響楽協会、(NPO)山形の音楽活動を応援する会・Mプロジェクト

本日はパストラール室内合奏団「アンサンブルだよ! 全員集合!! vol.2」
にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。
今回はベートーヴェンの四重奏とシューベルトの八重奏をお聴きいただきます。

今日のこの日、メンバーそれぞれが少し複雑な気持ちで迎えました。
皆さま、もうご存知だと思いますが、本日の演奏会は城香菜子さんの山響卒業演奏会となります。
いつか一緒にアンサンブルをしようね、と話してはいたものの、
実現しないまま時間ばかりが過ぎていたなかでの突然の退団報告。
これは今やらないと一生後悔する! と思い、また、せっかくの機会なので
仙台フィルハーモニー管弦楽団、首席コントラバス奏者でいらっしゃる城さんのお父様、
村上満志さんにもお手伝いいただき、今回の演奏会を迎えられることになりました。
この演奏会が城さんの新たな門出となりますように・・・

前半は弦楽器だけの四重奏、そして後半はコントラバスと管楽器が加わります。
オーケストラとはまた違った色彩をお楽しみいただけたら幸いです。

最後になりましたが、このコンサートの開催に際しまして、
ご協力くださいました皆様に奏者一同、心より御礼申し上げます。

パストラール室内合奏団 高橋あけみ

プログラム&曲目解説

1. L.v. Beethoven : 1. String Quartet Op.18-3 D major

L.v. ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第3番 作品18の3 ニ長調

この曲は6曲ある作品18のなかでもっとも早い時期の1788年に書き始められた。ベートーヴェンが18歳の頃である。そして、彼の作曲のスケッチ帳を見ても、それほど考え抜かれずに書きあげられたものらしい。それゆえに、この曲には他の曲に見られないようなのびのびとしたところがある。

◇第1楽章 アレグロ ニ長調

明るくのびのびとした第1主題で始まり、3連符によるいくらか軽やかな経過部へと移る。続く第2主題はチェロとヴァイオリンで立体的にあれわれ、そのあと新しい旋律が第2主題第2句としてあらわれる。その後、展開部では第1主題と経過部の主題を使いながら再現部へと導き、最後この楽章は力強く結ばれる。

◇第2楽章 アンダンテ・コン・モート 変ロ長調

ABABAの単純な構成のロンド形式である。

Aは極めて明るく優雅で、Bは休止符を利用した気軽なものである。続いてAの再現、展開が行われ、Bの再現、Aに基づく結尾がある。全体的に美しく抒情性にあふれた楽章である。

◇第3楽章 アレグロ ニ長調

性格的にはスケルツォに近い。第1部と第3部は生氣ある主題を扱い、中間部はニ短調になって、やや暗くなめらかな旋律がでる。

◇第4楽章 プレスト ニ長調

活発で明るく、しかもなめらかに流れていく楽章。爽やかな第1主題に始まり、楽しげな第2主題へと続く。展開部で力強い雰囲気を加え、再現部で盛り上がりを見せた後、結尾では次第に力を失い弱々しく曲を締めくくる。この楽章は、バロック時代の組曲の終曲、ジュークに近い雰囲気を持つ。

休 憩

2. Franz SCHUBERT : 2. OCTET for 2Violins, Viola, Violoncello, Double-bass, Clarinet, Horn and Bassoon F major Op.166 D803

フランツ・シューベルト：2つのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、クラリネット、ホルン、ファゴットの為の八重奏曲 ヘ長調 作品166 D803

この愛すべき八重奏曲は1824年、シューベルト27歳の早春に、ある貴族の注文を受けて作曲された。依頼者はトロイヤー伯爵フェルディナント。

ベートーヴェンが幾多の名曲を捧げた他ならぬルドルフ大公の、彼は侍従長だった。大公並みの音楽マニアだったトロイヤー伯爵が、おそらくベートーヴェンの若き日の作品、七重奏曲変ホ長調作品20が初演（1800年）以来たいへん評判が良かったのを目の当たりにしているうちに、自分にも同じような作品が欲しくなって注文に及んだものと思われる。

シューベルトに白羽の矢が立てられたのは、ウィーンの街の一介の音楽家にすぎなかった彼の存在が、ようやく、いわゆる上流社会の人々の間でも注目され始めたことを物語るものである。

依頼に当ってトロイヤー伯爵は、どうやらベートーヴェンの七重奏曲をモデルにして・・・という具体的な注文を付けたらしい。

シューベルトの八重奏曲の初演で第1ヴァイオリンを弾いたのは、ベートーヴェンの七重奏曲の時と同じく、名手イグナツ・シュパンツヒであった。それは1827年4月16日のことである。でもそれは公的な場での演奏であって、プライベートな形ではむしろトロイヤー伯爵がスコアを受け取って聞かないころ、さっそく演奏されたに違いない。伯爵は自らクラリネットをよくしたというから、彼も当然、八重奏の一員を努めたものと想像される。

◇第1楽章 アダージョ～アレグロ ヘ長調 4/4拍子

微妙に調性のうつろう導入部のあと、主部第1主題が力強く踊り出る。クラリネットに始まる陰影を帯びた楽想のあとチェロにさりげなく出るのが第2主題。アレグロの急速な楽章ながら、全体に柔らかな歌と夢に満ちているのが、いかにもシューベルトらしい。

◇第2楽章 アダージョ 変ロ長調 6/8拍子

典型的な歌謡楽章。素朴ながら美しい楽想を、まずクラリネットが歌い出すあたり、注文者へのサービスだろう。

◇第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ ヘ長調 3/4拍子

表記にはないが、実質的には純然なるスケルツォ。活気に溢れた主題に対して、トリオ（中間部）は一貫して穏やかな流れを持っている。

◇第4楽章 アンダンテ ハ長調 2/4拍子

自作のオペラ《サラマンカの友人たち》（1815年作）の二重唱から流用した主題と、それに基づく7つの変奏曲。

◇第5楽章 メヌエット：アレグレット ヘ長調 3/4拍子

形は愛らしいメヌエットだが、音の色合いはすこぶる深い。

演奏によっては、その優雅な音調の向こうに深淵がのぞくように思われるほどである。トリオのあと主部が再現され、簡潔だが繊細なコーダで終わる。

◇第6楽章 アンダンテ・モルト ヘ長調 4/4拍子～アレグロ ヘ長調 2/2拍子

メヌエットの夢を打ち砕くような、ものものしく激しいトレモロで始まる。長大な主部は嬉々とした爽やかな気分が支配的だが、その終わり近くで再び導入部が姿を現すのが独自の効果をもたらしている。